

平成28年度県外学校訪問報告書

- 【訪問高校】 東京都立板橋有徳高等学校
(竹 村 恭 一 校長)
〒175-0083 東京都板橋区徳丸 2-17-1
TEL 03-3937-6911
- 【訪問期日】 平成29年1月25日(水)
- 【訪問者】 玉利 博文, 森村 靖彦, 伊東 和輝
- 【対応者】 沼井 利枝 副校長
照井 博志 教諭(総務部主任教諭)
内田 正己 教諭(進路部主任)



<学校の沿革>

都立北野高校と都立志村高校を発展的に統合し、平成19年(2007年)4月開校

<学校の特徴>

- (1) 少人数授業及び国際理解教育 (2) 規律ある学校生活 (3) 芸術・スポーツを愛する校風
- ・ 1コマ50分30単位で前後期の2期制を採用している。1年次は全員教育課程を固定し、1年間の履修・修得で単位認定。
 - ・ 朝の3分間書写(朝のHR時に実施)で一日の開始を落ち着いた雰囲気の中で臨む。
 - ・ オフィスアワー(先生への質問タイム)を放課後に設定。
 - ・ 土曜特訓…国語・数学・英語の応力向上のために年20回実施(希望制)
 - ・ 土曜補習…基礎学力の確認・定着のために定期考査前に実施
 - ・ 夏季補習・冬季補習を実施

<アクティブ・ラーニング(以下AL)の取組>

- ① 東京都教育委員会(以下都教委)は、次期高等学校学習指導要領の改訂及び大学入試改革等の動向を見据え、「AL」の視点を生かした指導方法に関する研究及び指導資料の開発・普及を図るため、平成28年度から3年間で毎年15校ずつ(平成30年度には推進校が45校になる)AL推進校を指定する。平成28年度からの始まる推進校の一つが板橋有徳高校である。都教委からは3年間で一般需用費として30万円、研修旅費として30万円の計60万円の予算が与えられている。
- ② AL推進委員会は全日制・定時制合わせて15人で構成されている。教科代表にすることで委員会の情報が教科内に浸透しやすいとのこと。構成メンバーは以下のとおり。
- 校長, 副校長(全・定 各1名), 国語, 地歴, 数学, 保健体育, 情報, 家庭, 外国語からそれぞれ1名ずつ, 理科(全・定 各1名)と地歴(前出の地歴とは別に全・定 各1名)
- 平成28年度は準備年度という位置づけ、今年度の後半から平成29年度にかけてALの指導法や教材の研究・開発の成果を発表する外部授業公開期間とし、平成30年度末に向けて研究成果を報告書にまとめる期間となっている。今年度の委員会の活動は以下のとおり。
- 4月…第1回AL推進委員会(事業の内容, 予算の確認)
- 5月…第2回AL推進委員会(相互授業参観におけるAL型授業の公開)
- 6月…第3回AL推進委員会(外部講師による研修会, 先進校視察における公開授業参観報告)
- 7月…第4回AL推進委員会(AL推進校連絡会報告等)
- 都教委主催のAL研修会(都主催, AL研究の専門家による講演)
- 10月…第5回AL推進委員会(AL推進校研究報告書の作成に関する役割分担等の確認)
- 12月…都教委主催の平成28年度AL推進校実践報告会(実践例報告, 文科省講師による講演)
- 1月…第6回AL推進委員会(12月の実践報告会の内容確認と次年度に向けた予算等)
- ③ 昨年度は教員同士の相互授業参観回数が239回だった。ほとんどの教員が授業力向上に対する共通の意識があることがALを推進する上で大きな下地となっている。今年度の目標は225回とのこと。管理職は、これとは別に前後期それぞれ50回の授業参観(50分間全て)を行っている。

- ④ ALは、一斉授業の上に成り立っているという認識である。一斉授業を否定せず、単元のまとめなど各教科で計画した時期にALの授業を行っているとのこと。少人数（約20人）授業のため、教員が授業を展開する中で細やかな生徒観察に努め、基本的に生徒を褒めていくことで次へつながる評価（形成的評価）に心掛けている。授業の雰囲気は良いとのこと。

<進路指導>

- ① 生徒の進路希望は、おおむね大学50%，短大10%，専門学校25%，残りが就職等である。経済的に厳しい生徒が学年の約3分の1いるため、塾や予備校等に通う生徒は限られている。そのため、オフィスアワー（放課後の質問タイム、数学・英語は補習）や土曜特訓・土曜補習、夏期・冬季補習などで進路決定に必要な学力の定着・向上を図っている。
- ② 土曜特訓は年間約20回（1・2年は65分3コマ，3年は90分2コマ）だが，そのうち10回（月1回程度）は専門学校から講師を招いて公務員試験対策等を実施。他の生徒は，センター試験対策，英検対策，模試及び模試のとき直しを中心とする補習授業等内容は様々である。
- ③ 英語力の定点観測もかねてCBT（Computer Based Testing）方式のGTEC受検を全員に課している。GTECは，平日1日（6月）の授業をカットして実施。GTECのデータは7月にある進路検討会にも活用している。学校設立当初，私立高校への対抗意識があったため，校納金も模試受検を見越して多めに設定した。TOEICは実施時期が前期の進路検討会の後にある。
- ④ 生徒との進路面談に相当する「進路アドバイザー」の日を年間3日設定。生徒の進路希望に応じて先生方を専門分野ごとに振り分け（文学系では国語・英語の教員，工学系では理科の教員など）生徒に進路情報を提供したり，ディスカッションしたりして生徒の進路意識を高めている。低学年次から進路指導で生徒と教員との結びつきが強くなるため，3年次の入試の教科指導では，生徒は塾や予備校より先生を頼る傾向が強くなるとのこと。短縮授業（40分×6限授業）とすることで時間を創出している。
- ⑤ 前期終業式（10/17）と後期始業式（10/21）の間の秋季休業期間中に「進路カルテ」を用いた進路検討会を実施。「進路カルテ」には入学時の学力（5教科），2・3年次の選択科目，出欠状況，部活動，学習時間，進路希望と受験科目，外部テストの結果（1・2年次は3教科，3年次は5教科）のデータが記載されており，関係職員が進路希望実現のための情報交換を行う。担任は，この会で出た意見を元に二者面談・三者面談を実施する。若手教員も自信を持って三者面談に臨むことができるとのこと。

<参考>

- ① 全日制・定時制合同の学校行事（文化祭やAL委員会など）が多く，両課程の仲は良い。
- ② 2年から3年にかけてはクラス替えなし。担任が2年の時から生徒の進路希望の状況を把握し，急な進路変更にも迅速に対応している。
- ③ 文化祭（9月第2土日2日間）は1・2年生が中心となって運営している。但し，3年生の自主参加は認めている。
- ④ その他，広報活動の一環として6月第3土曜日の午前に授業公開（月曜午前授業）を，午後からは学校見学会を実施。公務員希望者に公務員模試も実施している。

